

1 目的

米子市の発達支援体制の確立に向け、米子市児童発達支援センターあかしやで発達支援の経験を積んだ保育士が支援が必要な子どもへの対応や、クラス運営について困り感のある保育士等に対し助言を行い、保育施設等の支援体制の充実及びインクルーシブ保育の推進を図る。

2 事業について

(1) 対象

支援が必要な子どもの保育を行う米子市内の保育施設等の保育士等

(2) 事業内容及び実施状況

①園サポート

発達支援保育サポーター及び心理士が保育施設等を訪問し、訪問先の保育士と共に活動し、クラス運営や子ども支援についてアドバイスを行う。

・実施形態：年間で5園程度を上限とし、通常2回の期間に分けて実施(概ね2週間程度の滞在)。

・実施状況(R7年度)：南保育園、西保育園、富益保育園、東こども園、小嶋保育園の公立5園。

②Tトレ(ティーチャーズ・トレーニング)

発達支援保育サポーター、心理士、あかしやの職員が保育士等に発達障害等の支援が必要な子どもへの効果的な対応を学ぶプログラムを行う。

・実施形態：令和7年度は1期、2期(各4回)に分けて開催。各期定員12名。

・実施状況(R7年度)：1期(6月～7月):16名参加(民間園8名) 2期(12月～2月):7名参加(民間園3名)

③あかしや見学会

発達支援保育サポーターが日々の療育を通して、支援が必要な子どもへの関わり方や環境設定の工夫を学べるよう見学会を行う。

・実施形態：あかしやの概要説明、療育の見学、遊びの紹介等

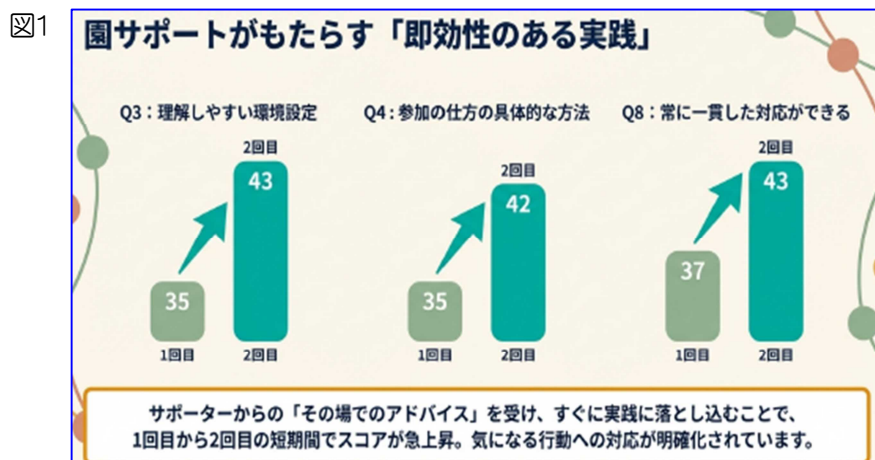
・実施状況(R7年度)：3回実施(6月、7月、10月)：計8名参加(公立園)

3 結果(効果測定)

アンケート実施による、効果測定。

(1) 園サポートにおける「保育効力感」の変化

・園サポートの実施により、保育の実践における視点の変化。(図1)



(2) Tトレによる「保育効力感」の向上

- ・Tトレの実施により、保育効力感尺度において、全体的に向上。(図2)
- ・具体的な支援方法についての習得に効果。(図3)

図2

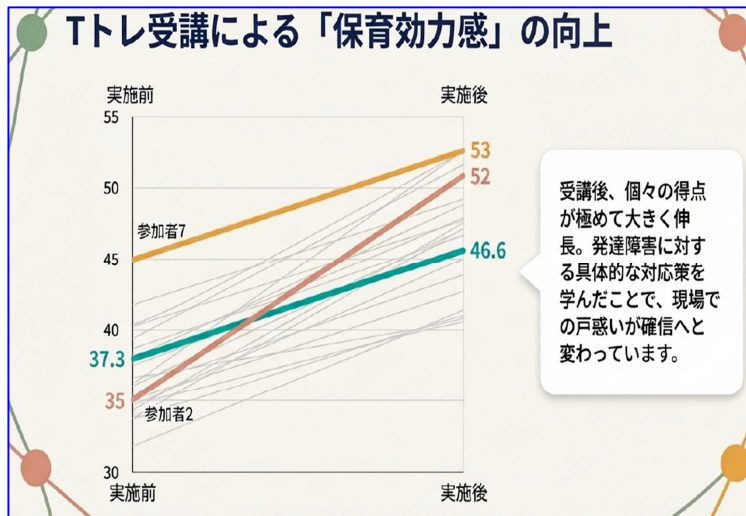
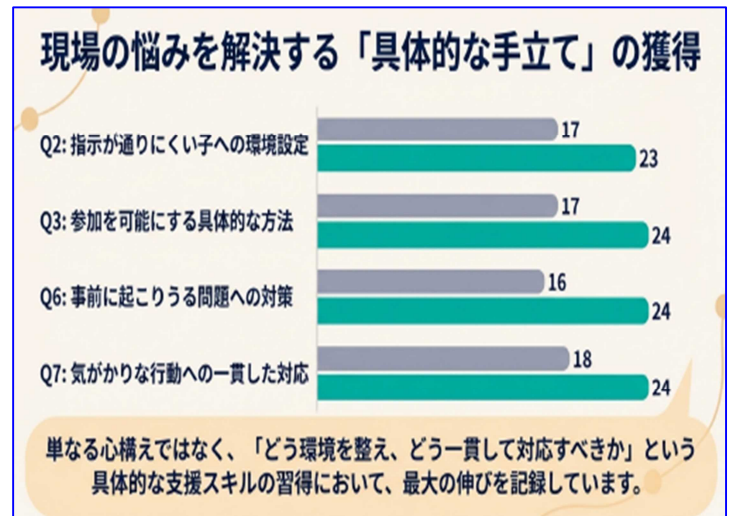


図3



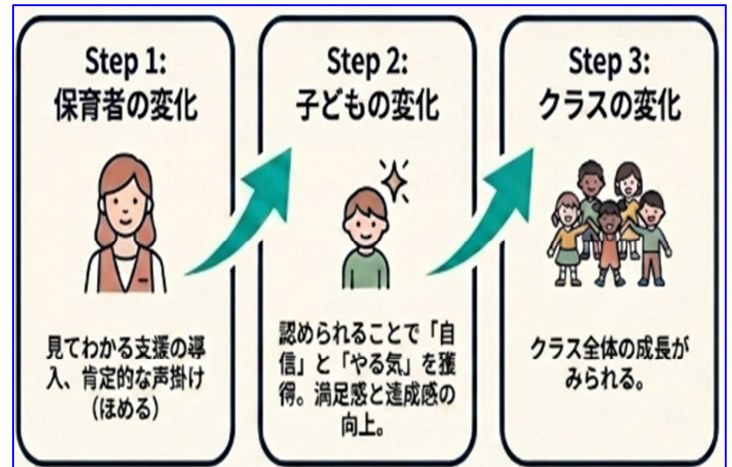
(3) 全体的評価

- ・子どもの良い面に着目する力が増えている。(図4)
- ・子どもを観察し、気になる行動が起きる前の対応を工夫することで、子どもの行動が良い方向に変化することが期待される。(図5)
- ・これらのことから、本事業が、保育士の子どもとの関わりの質の向上になっていることが考えられる。

図4



図5



4 今後の取組

(1) 継続的なフォロー

保育における課題を自らが解決することができるようなアドバイスをを行い、その後も取組が継続していけるようフォローアップを図る。

(2) 事業の拡大

対象園を公立園から、米子市内の民間の保育園、幼稚園、認定こども園へ拡大し、地域のインクルーシブ保育推進に取り組む。